

第27号

すだち

発行：
高次脳機能障がい
徳島家族会「すだち」
住所：
徳島市新浜町3丁目
（岩垣方）1-60

「高次脳機能障がい」と云う 「障がい」の理解を求めて 県下全ての市町村に要請・懇談

家族会要望書の提出と懇談会実施報告

家族会では、1月の総会方針を受けて、7月に要望案件の集約整理を行い、県当局をはじめ県下8市15町1村の25の行政機関に要望書の提出と懇談会の申し入れを行ってきました。

懇談会は、8月2日の松茂町を皮切りに、8市15町1村との懇談会を行ってきました。懇談日数は18日で懇談に出席した会員は延べ83名で、行政機関の対応者数は延べ77名でした。16機関では首長さん対応されました。

要望書に対する各行政機関のコメントの状況は、文書での回答が1機関、要望書に基づく詳細な口頭回答があった一方、要望懇談案件が国、県に対する案件だとする機関も複数ありました。なかには高次脳機能障がいと云う障がいを知らなかった、申し入れ書見て知ったと云う機関もありました。

また10月のリハビリテーション講習会への参加の訴えには、多くの機関が参加を表明され、22日の講習会には、例年になく多くの行政担当者が参加されました。

各懇談会日には、「南天九猿」を持参し、就労訓練を兼ねた会の活動をしていることを訴え贈呈しました。尚、行政懇談会には、昼間賛助会員の積極的な参加があり発言していただきました。



阿南市長に要望書の提出

市町村との懇談会では、出席会員からも個々要望に対する積極的な発言があり、有意義な懇談がもたれました。今回の懇談会について、会として充分内容を検討し会の活動に活かしていく必要があると考えています。

行政懇談会、県との懇談会が11月4日に開かれることになっております。

家族会では、行政懇談会を開くにあたって、懇談の申し入れとあわせて要望書の提出を事前取り組みとして行ってきました。

年次総会のお知らせ

日時：平成29年1月21日（土曜日）10時～

場所：徳島県立障がい者プラザ（ボランティア室3階）（徳島市南矢三町）

内容：高次脳機能障がい徳島家族会「すだち」年次総会

「市町村懇談会行動・参加者感想」 家族会要望と懇談の申し入れ活動 「高次脳機能障がい」充分に 理解を得られていない実態

家族会では、県下全ての市町村に対して、8月から9月にかけて要望案件を整理し懇談を実施してきました。(要望事項は季刊誌26号に掲載)各市町村懇談行動に参加した会員さんからの声を掲載させていただきます。(参加会員さんからの感想文を掲載)

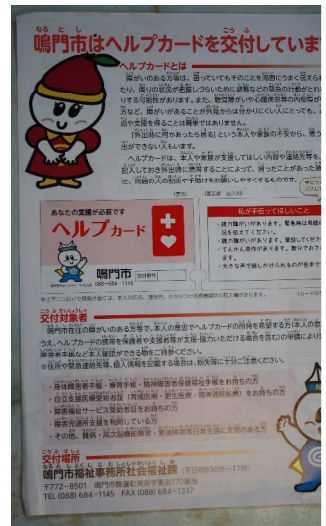
(活動の積み重ねが大切)

今回すだち会で県内各市町村を回り、懇談した内容とは、主に1、障がい者手帳に関すること、2、障がい者への支援について、3、障がい者への差別の解消、4、高次脳機能障がいへの理解を深めるための事業の策定の要望等でした。

感じた事は、「高次脳機能障がい」という「障がい」を初めて耳にしたという市町村が何か所かあったという事もあり、「これからが始まりか?」という思いでした。

最初に訪問した、松茂町の要望の際には、神奈川で起きたある事件の事が話題に上がりました。その時に、「例えば、こういった事件について、会員の皆さまはどのように考えておられるだろうか?」という事を思いました。「その対象者が、もし子供さんやお孫さんだった場合は、その将来の事をどのように考えておられるのか?」という事も考えると、私自身も胸が詰まる思いでした。

以前HPでも書かせていただいたと思いますが、昔の戦国武将に毛利元就が、「一本の矢は折れやすい。一つに束ねれば折れにくい。」と、兄弟や仲間との協力が大切であるという言葉、俗にいう「三本の矢の教え(三矢之戒)」を残しましたが、私達も、こういった物事に向かうにあたり、一人(少人数)で活動していくことより、一人でも多くの者が携わる方が効果もあり、良いのではと思ったりもしています。



そして、「親亡き後」と、私はよく口にしていますが、確かに今回各市町村は話を聴いてくれる時間を取っては戴きました。果たしてそれで終わりだとは思ってはいません。こういった積み重ねが大切ではないでしょうか? 会員の皆さんそれぞれが一つになって、誰のためでもなく自分の為だと思い、今後はいろいろな活動に取り組むべきだと感じました。各市町村等を訪問する場合、その町の情報をあらかじめ少しでも勉強し知っておくと、話のタネにもなると思いました。以上、市町村を巡り、その際に感じた事を述べさせていただきます。(K. H)

(温度差に驚く)

今回、県下全ての市町村長との懇談会を行ってききましたが、高次脳機能障がいと云う障がいの認識において、認識、対応に市町村によって大きな差があることが解りました。4月に障がい者差別解消法が施行されたとは云え、障がい者に対する差別、偏見が深いこともわかりました。

高次脳機能障がい者を職員として雇用している町、高次脳機能障がいのリハビリ治療が可能と広報で知らせている町があるかとおもえば「高次脳機能障がい」と云う障がい名も承知していないと云う実態も見られました。こうした実態からして、私達障がい者を抱える家族の取り組みの弱さも感じることが出来たことは大きな成果だと思っています。今回の取り組みを契機に、当事者、家族の要望が一つでも実現できるよう頑張っていきたいと考えている者です。(K. I)

日本脳外傷友の会第16回全国大会2016 in 高知

「見えない障がい?」「見てない障がい?」 ～もっかい考え直さんかえ～

加藤さん当事者活動奨励賞受賞

「すだち」から15名が参加・「南天九猿」置物の販売

10月8日、日本脳外傷友の会第16回全国大会2016 in 高知が『「見えない障がい?」「見てない障がい?」～もっかい考え直さんかえ～』をテーマに開かれ、全国から300余名が参加、徳島からは四国での開かれる大会として10家族15名が参加しました。

徳島の参加者は、大会前夜に開かれた全国交流会にも、そろいの会のジャケットを着けて参加し、「南天九猿」のポストカードを配布し、「すだち」徳島家族会の存在をアピールしました。

交流会は、ザクラウンパレス新阪急高知で開かれ全国の仲間350名が出席、県ごとに席に着き、開会挨拶の後、会食交流が行われ、よさこいの踊り手が全国からの参加者を歓迎し、本場よさこい踊りを披露、会場内が一気に盛り上がり参加者も踊りに参加していました。

大会当日は、片岡大会長開会挨拶に続いて、高知県知事(代理)・高知市長(代理)から来賓挨拶を受け、当事者活動奨励賞授与式では、加藤ゆかりさん(徳島)の切絵活動をはじめとして、服部八重子さん(福井)絵手紙活動、川崎充大さん(香川)農業活動、山本安洋さん(東京)音楽活動が認められ会から表彰状が送られました。



全国会長交流会での挨拶



奨励賞受賞加藤さんと古謝理事長、元東川理事長

その後、黒岩勉氏(国土交通省自動車局被害者保護企画調整官)、萩庭圭子氏(文部科学省特別支援教育課調査官)野口勝則氏(国立リハ職業指導部長)の三氏のガイダンス公演がおこなわれました。

また基調講演では、「滋賀県における高次脳機能障がい支援の現状から、今後の支援を考える」と題して北岡賢剛氏(社会福祉法人GLOW理事長)、「当事者の生きる知恵ー高次脳機能障がいから学んだこと」と題して山田規畝子氏と橋本圭司氏の対談講演がありました。宮本寛氏(南国中央病院副委員長)を座長に「そのままかまんちゃ〜」としてシンポジウムがおこなわれました。

(すだち・徳島家族会の宣伝活動)

会員で製作した、南天九猿置物を300対を会場に持ち込み大会会場ロビーで展示販売を行い、約80対を販売することができました。同時に、活動奨励賞を受賞した加藤さん製作の切りえも販売し50点あまりが販売されました。

来年は、岐阜で10/20～21で開かれます、また脳損傷ケアリングコミニター学会は来年帯広で6/10～11日に開かれます。

高次脳機能障がい リハビリテーション講習会開催

日本損害保険協会助成事業

高次脳機能障がいリハビリテーション講習会が10月22日藤井節郎記念ホール(徳島大学蔵本キャンパス内)で日本損害保険協会(一般社団法人)の助成事業として開催されました。(主催、徳島高次脳機能障がいリハビリテーション講習会実行委員会)参加者は、医療関係者、行政関係者、当事者・家族等120名が参加しました。講習会は白山晴彦氏(徳島大学大学院医歯薬研究部教授)の総合司会で進められました。

はじめに、実行委員会を代表して白山晴彦氏が、「診断や治療方法、法制度の適用、地域社会生活での具体的な支援啓発が必要」とする挨拶があり、第一部は、基調講演として「高次脳機能障がいに伴う運動障がいとリハビリテーション」と題して下堂菌恵氏(鹿児島大学大学院医歯薬総合研究科リハビリテーション医学教授)の講演と、第二部一般講演では「高次脳機能障がいの出会いーデイケア開設に至るまで」と題し、武久美奈子氏(医療法人日向会たけひさ医院院長)の講演がありました。高次脳機能障がい徳島家族会「すだち」の会員も、多数参加し、会場ロビーで家族会員製作の南天九猿等の展示、販売を行って「すだち」徳島家族会の活動を訴えました。



講演で下堂菌教授は、行政的な高次脳機能障がいと医学的にもつ定義が異なること、外国での高次脳機能障がいに対するリハビリテーションについて、またチーム医療について話され、①高次脳機能障がいを適切に診断、評価するとともに、他の失語、失行、失認の他、高次脳機能障がいも見落とさないことが重要。②個人的背景も含め様々な情報を収集し、治療に役立てる。③評価は患者の疲労や心理状態を把握し、徐々に進める。④カンファレンスでは各専門職が問題点を列挙・共有しその対策を多職種で分担し取り組む。⑤家族や病院・施設職員、職場(学校)に障がい像をよく説明・指導して理解を得た上で対応を統一する。⑥高次脳機能障がいに伴う運動機能障がいには片麻痺や失調のほか強制把握などの高次運動障がいがあり、種々の動作や行為の妨げになり、振動刺激を併用した運動療法などで対処する。まとめられていました。第二部一般講演では武久美奈子氏は、家族の障がいからデイケア施設の開設運営について経験豊富に話されました。当日、会場ロビーでは、南天九猿の置物を中心に、切り絵等を展示し、参加会員は会のユニホームを着用して参加者に協力を呼びかけ南天九猿20数体、切り絵等も多数販売することが出来ました。

第16回全国大会(高知)に参加して(感想文掲載)

「見えない障がい?」「見てない障がい?」～もっかい考え直さんかえ～をテーマに10月8日高知市で開かれた第16回日本脳外傷友の会全国(高知大会参加者からの参加感想をお寄せ頂ました。文章また口頭で話して頂いた内容を掲載します。

(高知に行って元気をもらった)

主人が、事故で高次脳障がいになり、初めての宿泊旅行でとても心配でした。第16回全国大会2016 in 高知交流会では多くの人だったのでびっくりしました。その時は300人ぐらいいたそうです。11人がけのテーブルにすだち会5人で座りました。南天九猿のハガキを隣の人たちに配布しました。食事は高知の名物や色んな物を多く出して下さりとてもおいしかったです。大会当日の午前は、日本脳外傷友の会の高知大会挨拶、加藤ゆかりさんの記念式典での表彰式を見ました。とても感激しました。その後南天九猿の展示場所に行って、ケースの中にいれるチラシ折りを行いました。午後の基調講演を聴き、いろんな症状が高次脳機能障がいにはあることを知りました。しかし、皆さんが頑張っていることに私も元気をもらいました。最初の不安な気持ちが嘘のように私のほうが沢山の元気をもら



りました。大会に出席できて本当に良かったです。一つ残念なことは、高知の屋台ラーメンを食べにいけないこと、今度はぜひ一緒にしたいです。今回高知での大会にお誘いいただきありがとうございます。(L. M)



(来年も参加したい)

高知大会に参加して、楽しかった、全国から多くの方が参加しているのにびっくりしました。なかでも体の不自由をおして参加している人には感心しました。来年は当事者も一緒に参加したいと思います。(T. I)

(加藤さん奨励賞おめでとう)

高知で開かれた全国大会において、徳島家族会会員の加藤ゆかりさんが、活動奨励賞を受賞できたことは嬉しかったし感動しました。また参加会員さんが南天九猿の販売を一生懸命だったことも良かったと思います。加藤さんおめでとう。(M. H)

(一番不幸と思っていた)

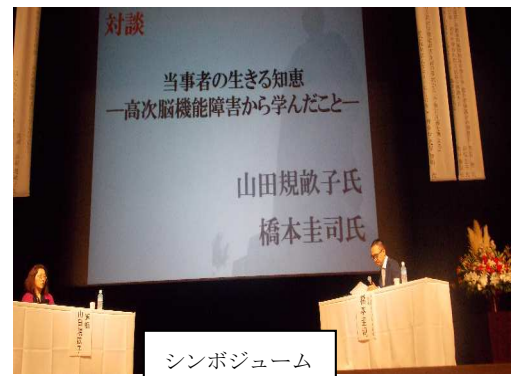
10月7. 8日に高知に行くのに自分なりに行くか、行かないか・・・色々迷いました。行く人に迷惑をかけるのも嫌やし、でも自分のことでもあり、行く人もみんな知っている人達ばかりなのと、いろんな話を聞いてみたいと思い行くことにしました。いざ行くと決めると、今度は久しぶりの一泊旅行なので不安と期待半々の中、皆さんに連れて行ってもらった。自分は、日に日に気分が悪く、頭が痛く、特に後頭部は痛いのが止まらない。脳の後ろの神経がごちゃごちゃになって手術も出来ない。目もよく見えない。この世で自分が一番不幸とちゃうかと思い、事故の相手を毎日のように恨みに思っていたが、高知へ行って自分よりも状態が悪い人や、若い人が自分と同じように事故で困っている話を聞いているうちに自分も、もっと前を向いていかなあかんと思いました。今回高知の交流会に参加して本当に良かったと思っています。(T. M)

(参加者の多さに感動)

内容がすばらしかった、高知大会に参加して良かった。全国から多くの方が参加しており感動しました。(E. N)

(いろんな話)

全国大会、これまでは開催場所が遠くて参加していなかったが、高知と云うことで初めて参加しました。すごい人数だったのでびっくりするのと同時に感動しました。またおいしいご馳走も頂き、いろいろな話を聞かせてもらって良かった。(M. N)



(多くの会員が参加)

全国大会には、初めての参加でした。近くだったので皆さんで参加できたのが良かった。参加準備は大変だったと思います。会の内容も良かったし、交流会での鳴子踊りは初めてでしたので楽しめました。自由時間の「ひろめ市場、また夜の屋台のラーメン」も初めて経験できました。(S. K)

高次脳機能障がい 実践的アプローチ講習会受講

2016年の東京高次脳機能障がい協議会(TKK)主催の高次脳機能障がい実践的アプローチ講習会の第2回講習会が9月11日、東京慈恵会医科大学(西新橋校)で開かれ、全国から200名余り受講しました。徳島もすだち会員1名が受講しました。

今年のアプローチ講習会は、5月、9月、12月の3期日での開催が決定されており、今回は、第2回目として4講座が開かれました。

第1講座は、「高次脳機能障がい～現在の到達点と今後の課題～」と題して中島八十一氏(国立障がい者リハビリテ

ーションセンター学院長)講義が行われました。第2講座では、「高次脳機能障がい地域支援ネットワーク～最新研究を踏まえて～」と題して白山晴彦氏(徳島大学大学院医歯薬福祉学分野教授)第3講座は、「交通事故被がい者のためのナスバの役割～被がい者援護業務」と題して、西山易彦氏(独立行政法人自動車事故対策機構東京主管支所次長)の講演が、第4講座は「生活の自立にむけて～」と題して、阿部順子氏(岐阜医療科学大学大学院教授)の講義がありました。

第1講座では、高次脳機能障がい支援事業モデル事業開始から支援普及事業に、また高次脳機能障がい診断基準、行政的な高次脳機能障がいの定義、今後の支援事業のあり方についての講義がおこなわれました。また第2講座では白山徳島大学大学院教授、地域支援ネットワークの必要性についての講義がありました。次回講習会は12月11日に4講座が開かれます。



<編集後記>

この間は、市町村懇談行動をはじめとして、全国大会参加、リハビリテーション講習会の取り組み等いろいろと行ってきました。懇談会に出席した会員、高知大会に参加した会員さんをはじめ、体調不良で諸々行事に参加出席できなかった会員さんに、会の取り組み、また行事の感想を事務局に上げてください。(文章、FAX、ホームページ掲示板、)